



所在地：上畑202番地（南高麗福祉センター内）

電話：070-7792-2431

FAX：050-3156-2236

メール：station-minamikoma@hannosyakyo.or.jp

火曜日～金曜日 午前9時15分～午後4時15分

## 地域の活動紹介

### ～飯能地区更生保護女性会

### 南高麗地区～

会員  
受付中!!

飯能地区更生保護女性会（以下、更女会）は、今年63年目の歴史ある団体です。飯能市・日高市・毛呂山町・越生町の2市2町、会員数80名ほどの更生保護に協力するボランティア団体です。

今回は、更女会南高麗地区の活動をご紹介します。例年7月は、法務省が主唱して行われる“社会を明るくする運動”強調月間で飯能駅前等での街頭広報活動のほか“愛の募金活動”などを行っています。他にも“ミニ集会・子育て支援活動”なども飯能地区保護司会など関係機関と連携して活動しています。現在は、コロナ禍以来活動を休止しており“愛の募金”のみ活動しています。

更女会南高麗地区代表・島田裕子さん（写真右上、前列）にお話を伺いました。

「この度“愛の募金活動”を行ったところ自治連南高麗支部はじめ自治会三役さん、企業や個



7月26日お集りのメンバーの方々

人大勢の方々のご理解・ご協力をいただき大きな募金額となり誠にありがとうございました。この募金は、保育園・保育所などへの“愛の図書”の贈呈、更生保護施設・犯罪被害者への支援などに活用させて頂いています。

私たちの活動は、一人ひとりが人として尊重される社会、だれもが心豊かに生きられる社会を目標に女性の持つ温かさ、誰もが持っている善意の心を生かして活動しています。この更女会の知名度が低い分このような言葉にすると“お堅い・むずかしそう”と思われるかもしれませんが、会員同士和気あいあいと楽しくをモットーに活動しています。現在5名の会員なので、南高麗の女性の参加をお待ちしています。それには自治会長さんをはじめ皆様のお力添えをよろしくお願ひいたします。私からの切なるお願ひです。併せて皆様のご理解・ご支援を心からお願ひします。」



会議中の様子

コロナ禍の影響で中止する場合がありますので、ご参加の前にお問い合わせください。

①南高麗ふれ愛ひろば、②サロン時計台、③KOKKO はんのう

次回の“ふくしの森ステーションみなみこまだより”は11月1日に発行します。

自治会の皆様、配布にご協力いただきありがとうございます。

～裏面へつづく～

# 地域ふくし発見!

地域福祉に関する素敵な取組みをふくしの森ステーションのCSW（コミュニティソーシャルワーカー）が取材・発信していきます。

「“ああ、これでいいんだ”という  
気持ちが家庭にもつながっていく。」

同じ悩みや問題を抱える親たちが「悩んでいるのは自分ひとりではなかった」と気づき、ホッとしたり、経験や気持ちを伝えあい、学び、支えあう仲間となっています。

「子どものために行くのではなく、“親自身の気持ちが楽になるから行くんだ”という気持ちで来てもらえれば。」

「子どもを無理に外に出そうとしても心が苦しくなる。まずは親の気持ちが楽になることで、家庭でも優しく接することができる。」

「いままでの“働かざる者食うべからず”といった考え方をなくしていくことも大事。働かなくて楽という子はいない。そこを社会全体が理解してほしい。」と代表の齊藤さんは言います。

「まずは相談先を探すこと。  
悩みを抱え込むのはよくない。」

「近い人ほど相談しづらい悩みもある。私自身も20年前は人に知られなくなかった。」

「市外の講演会を聞きにいったことで“自分を責める気持ちが変わっていった”。」

「私自身の経験からも“自分だけでなんとかしよう”というのはやめた方がいい。思い詰めて苦しくなるだけ。私もこの会で同じ立場の人と話せて、気持ちが楽になった。」

マロウドの会では、会員が対象の“学習会”、会員以外の方も参加できる“講演会”を年数回企画しています。（次回の講演会は11月を予定。）

見学も受け付けていますので、ご希望の方はぜひ下記までお問合せください。

## 「マロウドの会」の情報

【定例会】毎月第1（水）13：30～  
会 場 日高市総合福祉センター「高麗の郷」  
もしくは  
毛呂山町福祉会館「ウイズもろやま」

【日曜サロン】毎月第3（日）13：30～  
会 場 日高市総合福祉センター「高麗の郷」

【年会費】 2,000円

【問合せ】 ☎090-5575-7054（代表者齊藤）

## 独占インタビュー

# 「マロウドの会」

今回ご紹介するのは「ひきこもり」、「不登校」と呼ばれている子どもを持つ親の自助グループ「マロウドの会」。平成17年に6名のメンバーから始まり、現在では、県内外から34名の親が参加しています。

よく聞く言葉だけど…  
改めて「ひきこもり」って？

仕事や学校に行けず家族以外とほとんど交流がない状態が半年以上続いていることを言います。

ひきこもり状態にある人が社会に参加できるようになるためには、無理をすることなく行ける場所を増やしていくこと、そのために地域にお住まいの皆さんの理解が必要です。



最近では60名ほどが参加する“講演会”



ときにはリフレッシュで“フラワーアレンジメント”

“ひきこもり”のお悩みも、

CSWまでご相談ください。

飯能市健康づくり支援課の保健師など、他の専門職とともに、あなたの気持ちに寄り添ってお話を伺います。ひきこもりは誰にでも起こりえます。悩みを抱え込む前に、あなたのタイミングで、お近くのふくしの森ステーションまで、ぜひお気軽にご相談ください。